



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル・パレスチナ：西岸での衝突が増加

西岸地区で、パレスチナ人とイスラエル軍・警察との衝突が増加している。2月25日、米 국무省の副報道官は、イスラエルとパレスチナ双方に最大限の自制を要請した。西岸の治安状況については、2つの傾向があった。2013年1月3日、イスラエルのシンベド（国内治安を担当する諜報機関、モサドは対外関係を担当する）のコーヘン長官が、講演の中で、大規模デモの発生の可能性が増大していると述べた。7日、シンベドは、2012年8月に西岸で起きた暴力事件は28件だったが、12月は111件であり、西岸でのイスラエルとパレスチナ人の衝突が増加傾向にあるとした。他方、同じシンベドの1月の報告書では、2012年中、西岸でテロによって死亡したイスラエル人はゼロになり、これは1973年以来、初めてだとされた。シンベドの発表を基準にすれば、イスラエルの言うテロ事件は減少しているが、非暴力的な抗議行動の件数が増加している。

今回の西岸での衝突増加の直接の原因は、2月中旬から開始されたパレスチナ囚人に対する支援行動である。2月15日、西岸でパレスチナ囚人とハンスト中のサメール・イサウイを支援するデモが行われ、オフエル刑務所付近では500人のパレスチナ人デモ隊が警察と衝突した。西岸各地でも抗議デモが実施された。イサウイを支持するデモは、その後も続いた。そうした最中の23日、投石をしていて拘束されたパレスチナ人囚人1人が心臓麻痺で死亡したとされた。パレスチナ側は拷問で死亡した可能性があると主張した。24日、イスラエル軍は、幹部を集めて西岸での衝突激化について協議している。25日、刑務所で死亡したパレスチナ人男性の葬儀が、西岸のサエール（Saer）で行われ、数千人が参列した。遺体は、パレスチナ警察の車両で移送された。PA幹部も葬儀に参列している。

1月のイスラエル国会選挙では、中東和平問題は選挙戦のテーマにならなかった。連立協議では、国内問題が主要な争点になっている。イスラエル側には、パレスチナ問題を政治的議題の中で優先度の低い問題にして放置しておくこと、西岸で大規模な抗議行動が起こることを懸念する声がある。イスラエル軍は、武器による抵抗であれば、対処可能であるが、非暴力の大規模抵抗運動には打つ手がない。そのため、今回の西岸での非暴力デモ隊との衝突増加に関しては、パレスチナ側より、イスラエル側に、大規模な抗議運動に拡大することへの懸念が強いようだ。

（中島主席研究員）

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799